主な記事
2面　ひと、小教区紹介
　　典礼奉仕のために
3面　若い力、医療のともしび
　　青年たちの切実な思い
4面　震災支援、教区組織図
　　教区スケジュール

カトリック 高松教区報

２０１１年１１月６日（第１４５号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

教区民一丸で教区づくり考える

11月23日の教区宣教大会

語り合い、祈り、歌い、感謝の日に

三年がかりで準備を進めてきた高松教区宣教大会が十一月二十三日（水）高松市桜町司教座聖堂で開かれる。

これまで準備が進められプログラムも決められた。教区では諏訪榮治郎司教名で「司教、司祭、修道者、信徒が一丸となって、自らが選びそして決断した責任ある第一歩を踏み出す出発点という意味で、この宣教大会は大きな意味を持っています」と大会の重要性と教区民の開催への協力を呼び掛けている。当日は教区民が共に語り合い、祈り、歌い、神様に感謝の祭儀を捧げる一日となる。

大会は二十三日午前九時三十分受付開始。十時三十分オリエンテーション、十時四十分に開会あいさつで始まる。十時四十五分歌と祈り、十一時から第一部［交わりの部］が始まり、十二時まで沈黙、歌、分かち合い等が持たれる。参加者は「わたしが神様から頂いた恵みは・・・です」「この社会で出来ることは・・・です」「与えられたこんなこと・・・が素晴らしいのです」の三つの質問への答えを短い単語で事前に準備するように求められている。

十二時から昼食の後午後一時からのアトラクションでは四国四県からの独自の出し物が披露され、ＷＹＤ報告もある。

午後一時四十五分から感謝の祭儀・ミサ。ミサでは言葉の祭儀の中で司祭、修道者、神学生が自分の召命について語る。諏訪司教は〝地区教会、桜町聖母幼稚園、カトリック会館など、周辺のほぼ全施設を使用するので大会用の駐車場はない。参加者は公共交通機関を利用するか、各自で駐車場の確保が必要となる。

大会に先立って教区は各小教区へ「宣教大会へ向けての祈り」を教会や家庭で出来るだけ毎日祈ることを呼び掛けた。また当日の献金は東日本大震災の被災者支援と高松教区サポートセンターのために捧げることが決められた。

今大会のスタンスは基本的に教区が主導するのではなく、各地区、ブロックが主体となって考え、教会づくりを進めて行くかたちを取っている。このことで信徒からの大きなうねりが起こることが期待されている。

準備にはナイスの精神を伝える冊子「ともに喜びをもって生きよう」（日本カトリック司教団）が使われた。昨年の各地区の「教区民の集い」で発表された「こんな教会になりたい」を踏まえて、現代の不安に満ちた社会の中での光となるような生き生きとした教会づくりが模索される。

宣教大会（教区シノドス）プログラム

2011年11月23日（水・勤労感謝の日）

9:30 受付
10:30 オリエンテーション
10:40 開会あいさつ
10:45 歌・祈り
11:00 交わりの部
　説明
　沈黙
　分かち合い①と歌
　分かち合い②と映写・沈黙
　分かち合い③と歌
12:00 昼食　（部屋割り）
13:00 アトラクション
　ＷＹＤ報告・（地区）出し物
13:30 ミサへの準備
13:45 感謝の祭儀（ミサ）
　プレゼンテーション
　各地区の祈り
　派遣（シンボル捧持）
15:15 閉会あいさつ
15:30 後片付けと 清掃（参加者全員）
16:15 終了

高松教区宣教大会を前に

高松教区司教　諏訪 榮治郎

四国の地に神の「希望といのち」を

さて今、私たちはどんな社会に生きているのでしょう。世界各地で自然災害に苦しむ日々が重ねられています。また人は生きる基準である神を見失い、偶像に心を奪われて不安とストレスの中に生きざるを得なくなっているといっても過言ではないでしょう。そんな中で私たちは「教区宣教大会」に向けて三年の間準備をしてまいりました。「教会とは何か」「どんな教会になりたいのか」と問いかけて来ました。

それは教会のビジョン作りといえるものでした。『ビジョン（夢）がなければ民は滅ぶ』（箴言二十九・十八）この社会の中で「小教区」「地区（ブロック）」がはっきりとした方向性を持つこと、一致したビジョンを持ち、地区としてつながることによって、小教区は支え合い、より「開かれた豊かな教会」となるのです。「宣教大会」に向けて準備会は「地区」を単位として準備して頂くようにと呼びかけて来ました。教会を「小教区」に限定してとらえるのではなく、「地区（ブロック）としての一つの共同体」がその協力の中でダイナミックな「キリストの体」となれるのではないでしょうか。

「世の人々にとって教会は希望になれますか」「光になれますか」「塩になれますか」という問いかけです。阪神淡路大震災の時、人々は教会に目を向けました。行政は人々に教会を告げました。「わたしの教会」から「キリストの教会」への脱皮が始まりました。世の人々の思いに応えようとしたものでした。この問いかけはこれからも続きます。時を同じくして世界中の教会が「新しい福音宣教」に取り組もうとしています。私たちもこの四国という地において神による「希望といのち」を人々と分かち合いたいと思います。教区宣教大会はこれからの一歩を始める集いであり、この世に派遣される神の民の希望の集いとなりたいのです。

教会の歴史を思う時、不思議な驚きを感じます。パウロが裁判のためにローマに護送される途上、カイザリアに留め置かれ、そこで総督フェストに弁明します。総督は叫びます。「パウロおまえは頭がおかしい。」

確かに人間的に考えればパウロ一人がイエス様の復活の神秘を語っても、その言葉は時の流れに露と消えるでしょう。パウロ一人が語ってみても世界（ローマ）は変わらないと考えて当然でしょう。

「パウロおまえは頭がおかしい。」これは本当だったのでしょうか。二千年経った今、ローマ帝国は無残な残骸と苔むした胸像を残しているに過ぎません。しかしパウロの言葉は二千年経った今も私たちの心に神の呼びかけと、希望を与えてくれるのです。総督フェストの常識と使徒パウロの言葉のどちらが歴史が証明してくれています。私たちは「歴史の主人公は人を通して神様である」ことを改めて確信するのです。

このように神の教会は聖霊によって導かれてきました。神の息吹を受けた一人ひとりの召命が教会共同体を創り、キリストの体として成長し、世界の各地に教会が備えられました。それは「協力宣教」だったのです。私たちが「神の民」と歌われているゆえんです。

はばたき

私の好きな八木重吉の詩に「すべての／くるしみの／こんげんは／むじょうけんに　むせいげんに／ひとをゆるすという／そのいちねんがきえうせたことだ」とあります。

まことに私たち人間は、ゆるせないという苦しみの中に生きているのかもしれません。また、「神のごとくゆるしたい／ひとが投ぐるにくしみをむねにあたため／花のようになったらば神のまえにささげたい」という詩もあります。

花のようにというのは、ゆるされ難い私がゆるされているのだから、誰も無条件でゆるさねばならないという思いでしょうか。そうできる恵みを祈り求めたいものです。福音の本質は「愛とゆるし」の二語につきるのですから。

今月二十三日、諏訪司教さまをお迎えして初めての教区宣教大会が開かれます。大会は　司教さまによれば、この日本（四国）という社会、精神文化の中に生きる人々に、どのようにしたらイエスさまの福音をもたらせることが出来るのか、「新しい福音宣教」へ向けての各地区の道のりを祈り合う集いだと言われます。

それには先ず、私たち一人ひとりの「イエスさまとの出会い」の体験が必要になるのでしょう。世界の教会と歩を合わせて、みんなでゆっくりと歩んで行きたいものです。

もうすぐ待降節です。底抜けの「愛とゆるし」を生き抜かれたお方をお迎えする心の準備を致しましょう。

この一年間、貴重な機会をお与えくださったことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

神に感謝！

徳島教会　高田芙美

宋 亨根（そん　ひょんぐん）神学生
高山 徹（たかやま　あきら）神学生
いよいよ日本カトリック神学院へ！

先日、高松教区の２神学生が日本カトリック神学院の入学審査を受験しました。その結果、めでたく来年４月からの入学許可を得ました。これまで、志願生として教区で生活する中で、本当に多くの方々のお祈りとご支援を頂いたことに心から感謝感謝している二人です。これで、日本カトリック神学院で学ぶ高松教区の神学生は、３名（ヨゼフ・宋・高山）になります。教区の信徒の皆様には今後とも、お祈りとご指導とご支援をお願いいたします。これら神学生は皆さまのお祈りとお気持ちに応えながら、一歩ずつ着実に歩んで行くことでしょう。尚、宋神学生は福岡の神学院で「神学科」編入、高山神学生はヨゼフ神学生と共に東京の神学院で「哲学科」を学ぶことになります。新たな出会いや交わりを通して大きく成長することを楽しみにしましょう。

秋晴れの下 広島教区長 前田万葉司教 叙階さる

去る九月二十三日（金）広島カテドラルに於いて前田万葉新司教叙階式が執り行われた。折しも台風一過の素晴らしい秋晴れに恵まれ、二千人を超える参列者と共に大自然の祝福を受けた。

叙階式ミサは三末司教主司式のもと日本の全教区司教を始め全国各地からの約百五十名にも及ぶ司祭団との共同司式によって行われ、荘厳な雰囲気の中にも新司教誕生の喜びを歌う聖歌隊と司教誕生に合わせて金管ファンファーレが鳴り響き、式は最高潮に達した。

叙階のあいさつの中で前田司教はこれまでの広島教区の歩みを続けることを表明した。式後、全参加者に祝宴会食が振る舞われ、広島教区の新司教への期待の大きさを覗わせた。

小教区紹介 道後教会

色鮮やかステンドグラス

全国的にも有名な道後温泉本館の玄関から真直ぐに西方向へ五百メートルも行くと、屋上に大きなマリア像のある聖母幼稚園とその隣に伝統的なゴシック様式の道後教会が見えます。聖堂の中はスペイン風の明るいデザインとなっていますが、すべての窓枠にはめ込まれている色鮮やかなステンドグラスが印象的です。このステンドグラスは「明るい教会、開かれた教会、誰でも近づける教会であってほしい」との思いから一九九〇年に取り付けられたものです。

二年前に献堂五十周年を迎えた道後教会ですが、平均年齢五十六歳の、女性が圧倒的に多く、高齢化した教会です。昨年の四月に、三十歳代の若い川上神父が主任司祭として赴任され、この教会をどう活性化していくのか色々と思い悩んでいるところですが、最近の動きを少し紹介したいと思います。

これまで日曜日のミサが終わるとすぐに帰ってしまう人が多く、信徒同士の交流が十分でなかったので、ミサ後に立ち寄りやすいように事務所前の駐車場にテントを常設し、この夏からは無料で飲み物をサービスしています。日によってバラつきはありますが、二十名程度の方が残るようになり、交流の場が増えました。

またウィークデイには教会の多くの施設が遊んでいるので、地域との交流を深めるべくフラワーアレンジメント教室（花遊び教室）、合唱団（ユビラーテ）を結成し練習を始めました。どちらも活発に活動しており、この十一月に幼稚園と一緒に開催する恒例のバザーでも大活躍の予定です。

この道後地区は四百十数年前のキリシタン時代に福者ペトロ・パウロ・ナバロ神父が四国で初めて教会を作った地であり、この五月にナバロ神父の足跡をたどるべく、大分、雲仙・島原へのツアーが企画され日本中から多くの方々が参加されました。

道後教会　城　和雄

ひと　ボランティア絵手紙教室を主宰

宇和島教会 菊池信子さん

「先生お願いします！」「いやだ、先生とは言わないでと約束したでしょう」とおっしゃるのは、ボランティア絵手紙教室の先生、菊池信子さんである。３年前に５名で始まったこの教室が現在は２０名になり半数は未信徒の方々で、月１回の教室が楽しみと皆さんが待っていて下さいます。絵手紙を書いた後のお茶会、又食事会には田中神父様もギターを持って参加して下さり、とても和やかです。

菊池さんは現在小教区評議会の副議長の立場にあり、教会の事はもちろんですが、信者の健康状態等を常に気遣い、教会に見えられない方や病気の方、入院されている方を訪問し個人的な慈善の業に走り回っておられます。教会のある定例会の場で、菊池さんの訪問を受けた方が感謝の気持ちで業績を称えると、菊池さんは謙遜に「天国に宝を積んでいたのにふいになったわ」と冗談交じりに言われ、自分のことを決して誇らず謙虚に話されておられました。心はいつも神の前にいらっしゃる方で、絵手紙だけでなく信者のお手本となる女性です。

上の絵手紙は、菊池さんが描かれたもので、ＮＨＫ通信講座のテキスト『絵手紙倶楽部』にサンプルとして掲載予定のものです。

宇和島教会　藤田禎子

『典礼奉仕』のために ⑬

高松教区典礼委員長　レナト・フィリッピニ師

キリスト抜きのクリスマスに注意

キリスト教信徒の少ない日本なのに、クリスマスは一般的なイベントとして盛んになっています。カレンダーにも書いてあるし、さまざまな分野の業界にとって絶好の商売の時期です。

ケーキ、ディナー、プレゼント、高級なホテルで過ごすなどなど。「教会でもクリスマスを祝うの」とびっくり仰天するような言葉に出会うほど、そこまで、クリスマスは社会に根ざしてきているのです。マスコミの影響でクリスマス・イブに教会に行くのが流行っています。その夜、ミサに参列する非キリスト者も結構多いです。だからこそ、教会の降誕祭のあり方を考えてみたいと思います。

まず信徒自身が家族や友人に声をかけ、誘うことを出発点にしましょう。

ミサの初め、十字架のしるしの後、「メリー・クリスマス」というクリスマス会の挨拶をする教会は少なくないでしょう。実は、主日のミサの時も、三位一体の神による挨拶後、「おはようございます」と付け加えるということをしばしば耳にします。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり」という三位一体からくる挨拶に、異質な世間のことを加えるということは、式の威厳を損なうのではないでしょうか。

聖堂内外に、馬小屋あるいは聖家族の像など、きれいにクリスマス飾りをする教会は多いでしょう。でも、初めて教会に来る人にとって、ただ「かわいい」という思い出しか残らないとしたら残念です。

典礼の環境作りに大事な役割を果たしているのは事実ですが、典礼を支えるためには、まだ他の面でいろいろな工夫が必要でしょう。たとえば、受付で初めての方に、その日の式次第とともにキリスト教講座や教会活動の案内のチラシを渡すことはその一つ。ミサが始まる前に導入の言葉はいかがでしょうか。ミサが始まるときは司会者による世間の挨拶もよいでしょう。ミサの中では進行の指示だけではなく、ミサの部分について簡潔な説明を提供することも。このようなことによって、教会で行われているのは、「クリスマス会」ではなく「感謝の祭儀」であることに気付き、キリストの降誕を祝うことの本当の意味を味わっていただけるでしょう。

クリスマス・シーズンには、サンタクロース、イルミネーション、ケーキなどの広告が目につきます。チカチカ輝くライトが眩し過ぎて、しるしであるどころか、クリスマスの主人公であるキリストを見えなくしていることが気になります。まさにキリスト抜きの、社会のクリスマス。本人抜きの誕生パーティーではないでしょうか?そのような世間の風潮に巻き込まれないように、降誕祭にむけて、典礼と環境を整えていきたいものです。

教会ではキリストの死と復活を記念する祭儀、つまり典礼は、クリスマスのようなお賞味期限の短いイベントではありません。典礼は、「一年を通して日曜日ごとに味わうことができるもの」、その味見として、二十四日の夜ミサに来る人々に味わっていただけたらいいなと思います。

小天使たちは
ローソクを片手に瞳をキラキラ光らせて
グロリア・聖夜・主は来ませりを歌う・・
大天使たちは
それにバイオリンと
オルガンで唱和し
ファン・ゴッホの絵のようなスライドで
主の誕生を見せてくれる
始めは悲しく・美しく
そして次第に
僕は黄金の像になったように
喜びで輝きだした
僕の前にグロリア
僕の横にグロリア
僕の後にグロリア
僕の頭上にグロリア
僕はこの良き日を
今までディケンズの
クリスマスキャロルの
スクルージのように
心から祝したことがなかった
しかし・・・
この小天使の歌声はどうだ
あゝ今 光の祭りの真っ最中
僕は心の中でメリクリスマス
メリクリスマスと祈っていた
主よ、一つにしてください
わたしたちを あなたの望みのうちに
主よ、歩ませて下さい
私たちを 貴方の愛のうちに

ちょっと
ひとやすみ （詩）

四国の修道女46名が集う

高松教区修道女連盟総会

２０１１年９月１０日四国カトリック会館において講師に諏訪司教を迎え「宣教大会に向けて」と題して研修会が行われた。諏訪司教は「新しい福音宣教」のあり方（シノドスリネアメンタより）について語られ、変化する現代社会の状況に応えるために勇気をもって進んでいかねばならないこと、新しい福音宣教は霊的活動であり、イエス・キリストの人格との個人的な出会いから始まることだと説かれた。また「宣教大会」においてはＮＩＣＥ「福音宣教推進全国会議」の３本の柱「信仰、共同体、現実」を確認しながら「どんな教会になりたいか」を考えて行き、結論でなくてもよいから祈りとして捧げていきたいと話された。

午後からは今年度の総会が行われ、またこの度、立ち上げられた教区のサポートセンターについて、センター長の谷口助祭より説明があった。

午後２時からは諏訪司教様の司式でミサが捧げられ、一同、奉献生活の誓いを新たにし感謝のうちに閉会した。

聖母被昇天修道会
Sr.高松常子

青年たちの切実な思い　－ 信仰者としてどう生きるのか －

ブラザー八木信彦

先日行われた「召命」がテーマの大阪教会管区司牧者研修会(6/7-9、大阪梅田教会)の中で、「若者を取り巻く様々な社会環境やその移り変わりの中で、青年たちが信仰者としてどのように考え生きているのか。」を、若者へのインタビューを通してまとめ、発表しました。

このことを通して、おおいに今の日本の教会に生きる若者の現状を知る機会となりました。これからの教会や召命について、また彼らの置かれている環境への理解の一助となれば幸いです。

以下は若者へのインタビューとその答えです。

１．豊かさの中で生きる若者

「豊かさ」の到来

・　「豊かさ」は決して想像していたような生きていくのが楽な世界ではなく、物と情報がうっそうと立ちはだかるジャングルであり、常に欲望の誘惑に立ち向かっていかねばならない。「豊かさ」生きることの難しさに若者は直面している。

「欠乏」時代の価値観

・　「欲しいものやしたいことを我慢し、高い目標の実現に向かって努力し頑張る生き方」という価値観、この豊かな世界では、逆に疲れ果て、不適応を強いるだけで、それがおもりになる。

そのギャップ

・　若者は「欠乏を生きる知恵」ではなく、「豊かさを生きる知恵」を大人に求めているが、大人はその知恵をほとんど持っていない。依然として「欠乏を生きる知恵」を伝授してしまう。

発想の転換

・　豊かさの中で生まれた若者は、新しい生き方を模索するという困難な課題に挑戦し、新しい適応を見つけていこうとしている点では先輩であり、「豊かさ」に適応する知恵の導き手であり大切なパートナーである。彼らと一緒にこの豊かさを「どう生きるか」を考える姿勢・態度を大事にするという大胆な発想の転換。

２．青年をとりまく社会・環境・現状

就職･仕事

・　景気が悪い状態に生まれたせいか、夢、希望が持てない。安泰を望んでしまう。難しいことに挑戦できない。無気力。20歳台の失業率は極めて高く、更に20歳台の非正規雇用者の割合は高く、青年層の労働環境の不安定化が急激に進んでいる。

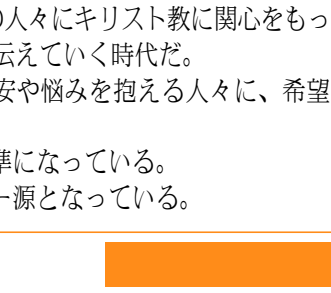
青年の流動化

・　融通の効く青年層に急な配置転換や異動を命じる場合が見られ、大学生の場合も、半年毎に授業の予定を立てている。一見、何も不自由な生活をしているようには見えない青年たちの多くが、実は『一寸先は闇』の状況に立たされてしまっている。

教会と一般社会の価値観のギャップ

・　教会はビジネスマンの時間帯に合わないし、教会と社会の間の価値観があまりにもかけ離れ過ぎていて、戸惑いを感じている。

・　正義を出してはいけない。もし出すとひどい目にあう。正義とは逆の力が支配している。何かが起こっても良い方向に導かなければという雰囲気ではない。


青年による発表風景

・　家庭の信仰・霊的教育力は落ちている。

以上のことから

３．教会に対して

悲しいこと、残念なこと

・　色んなタイプの若者がいて、受け入れるのが難しい若者が多いかもしれないが、「今の若者は…」とひとくくりにされること。

・　仕事を押しつけられ、責任が集中し、息抜きができない毎週日曜日になっている。「役職」を期待され、深く教会に関わると疲れてくる。

・　教会活動を義務的に「こなして」いる感じがして、人格的、霊的な成長の為にあるものを取り組む姿勢が弱い。

・　従来型の「年間行事に基づいた活動」は、もはや青年の生活実態に合わない(上記の「青年の流動化」参照)。

・　教会の中で道徳観念や規則で縛られてきた。ありのままの自分ではなく、「良い子」でなければならないし、「良い子」であり続けることの苦しみに悩む。

うれしいこと

・　教会で良いリーダーに巡り会え、世代を超えた出会いや仲間と一緒に分かち合いや成長ができる。学校ではできない人間関係を築くことができる。そんな教会が好きで恩返しがしたい。

・　今こそ若者を含め多くの人々にキリスト教に関心をもってもらい、その価値観を伝えていく時代だ。

・　キリストの福音は、不安や悩みを抱える人々に、希望や安心を与えていける。

・　人生や就職時の価値基準になっている。

・　ミサが生きるエネルギー源となっている。

４．聖職者に対して(以下のようだったらうれしい)

姿勢･態度･生き様

・　伝えるときに言葉に頼りすぎ、生き様が大事。生き様で宣教してほしい。言葉でない説教。聖職者が態度・行動で示すこと。我々に一致を求める前に、聖職者同士が一致していないのは残念。模範が欲しい。

・　本人が幸せで、いきいきとしていてほしい。

・　自分の召命に忠実に生きて欲しい、召命の原点を大切に。

・　弱さをさらけ出してほしい。

・　今社会や学校で起きていることに興味を持ち、敏感であって欲しい。このことをよく知らない人から神さまの話を聞いても響かず、雲の上の話という感じ。

そばにいる(出かけていって会う)

・　聖職者とのふれあい。出来る限り若者から見える近い存在であり、若者の傍に聖職者の存在があり、とにかく「そこにいる」こと。若者の現場に「自らが出かけ、出会ってみる」こと。

・　神と人との両方に近い存在であってほしい。

５．召命について

取り組み

・　「召命」というテーマに、これまで真剣に向き合ってきたのか。具体策の計画、実施、評価に丁寧に取り組んできたのか。もし既に真剣に向き合い具体策も尽くした上で、ある種の絶望感に囚われるのであれば一定の理解はできるが、今教会全体を覆っているのは何か具体性のない「漠然とした憂いや嘆き」ではないか。

・　今からでも、このテーマに真剣に向き合い、具体的に知恵を絞れば多くのことができるはず。

具体案

・　召命にチャレンジしやすい雰囲気作り。召命に対して苦労が多そう、視野が狭いというイメージがあるが、肯定的・積極的に捉える。もしその道から帰ってきても受け入れる雰囲気。

・　聖職者は偉い、ほど遠い存在、身近ではないというイメージがあるので、親近感を感じてもらう努力。

・　聖職者や聖職者を目指している人が多くの青年たちと触れ、関わり、話を聴くこと。

・　召命のためではなく一般的な黙想会から導入。

・　召命についてまずできる限り、分かりやすく情報を伝える工夫をすること。

・　聖職者を必要と心底願うこと、弱さはあるが尊敬すること。最後のひと味、まとめはやはり聖職者であることを再認識すること。

医療のともしび（29）

ルルドへの旅

「ルルドへの旅」という本をご存じでしょうか。生理学、医学に大きな貢献をして、ノーベル賞を受賞したアレキシル・カレルの著作です。

「ルルドへの旅」は、カレルが１９０３年にルルドへの巡礼団の医師として体験したルルドの奇跡について、ルラック(カレルを逆に綴ったもの)を主人公にした小説の形式で書かれたものです。ルラックは、ルルドで起こる奇跡について自己暗示によって起こるもので、器質的疾患には効果がないと考えていました。しかし、彼の診ていた結核性腹膜炎の女性がルルドの聖水によって瞬く間に治ってしまったのです。誤診だったのか、本当に科学では証明できない奇跡が起こったのかと彼は動揺します。神、聖母、科学、理性の間で彼の心は揺れ動きます。

しかし、聖堂で彼は、「謙遜に汝によりすがる不幸な者に助けを与えるやさしき聖母よ、私を御身の御許にとどめ給え。私は御身を信じます。御身はめざましい奇跡をもって私の祈りにこたえ給うた。私はまだそれに対して目を開かれていず、疑っています。しかし私の生涯の最大ののぞみ、最高の熱望は、熱情をもってすべてを信ずることであり、ふたたび分析したり、疑ったりしないことを望んでいます。」と祈るのです。実際のカレルは、その後ノーベル賞を与えられるように科学でも業績を残し、「人間この未知なるもの」を著し、信仰者としても生きていきます。この本は、今年帰天されたメンディザバル神父様が私の受洗前に薦めてくださった思い出深い、そして信仰を強めてくれる著作です。

皆様に、是非ご一読をお薦めします。

医療法人聖心会阪本病院
院長　阪本一樹

若 い 力

信仰の先輩として

松山教会　高田雄太

最近子どもたちの教会離れがよく言われています。確かに、教会に通う子どもたちが減っていることは考えるべきことではあります。しかし、本当に問題とすべきことは、子どもたちが『信仰離れ』してしまうことではないでしょうか？ 僕自身子どもの頃から『信仰』を持っていたわけではありません。でも、教会に行くと友達がいて、日曜学校で神様のことを勉強したり、遊んだりし、楽しかったことは覚えています。そんな楽しかった思い出のおかげで、僕は今でも教会に通っていますし、自分なりの信仰を持っています。しかし、勉強や部活などで忙しく、教会になかなか来れない友達も何人かいました。 その友達の中には教会には行けていないけど、家で祈っているという人も少なくありませんでした。それを聞いて『一緒にいなくても、神様を信じる心で繋がっているんだ』と感じました。また、『自分は教会には通っているが、本当に信仰心を持って祈っているのか？』と自問自答し、『信仰』を見つめ直す良いきっかけともなりました。 子どもたちにいきなり『信仰心』を押し付けるように教えても、将来的にその『信仰』は薄れていくでしょう。そして、学校生活の忙しさもあり、教会に通わなくなっていくようでは淋しい気がします。そうではなく、子どもたちが自ら教会に行きたくなるような、また、祈りたくなるような環境を整えるのが、僕たちの役目であると考えています。子どもたちとの交流や、勉強会を行ったりとその方法はたくさんあります。子どもたちは未来の教会の担い手です。その子どもたちの『信仰心』を導くことこそ、今の若者のすべきことだと思います。

筆者：前列左から２番目

聖ドミニコ宣教修道女会

食べる青唐辛子　絶賛好評発売中!
自然の味わいをいつまでも
株式会社 サンコウフーズ
〒761-4421 香川県小豆郡小豆島町苗羽甲 2204
TEL 0879-82-0430　FAX 0879-82-1102
URL http://sankou-foods.com
E-mail shodoshima@sankou-foods.com

TOTAL INTERIOR Sanyu
室内装飾の総合企画・設計・施工
三友商事株式会社
代表取締役 杉本 憲俊
〒761-0311 高松市元山町1235-1　TEL087-867-0033
FAX087-867-0029

教区スケジュール

１１月
- ９日（水）ラテラノ教会の献堂祝
- １１日（金）宣教司牧評議会役員会 13:00
- １２日（土）青年・高校生のつどい高松地区（～13日）
- １３日（日）年間第３３主日
- １６日（水）生涯養成委員会 10:30
- １８日（金）宣教司牧評議会 13:00
- ２０日（日）王であるキリスト　聖書週間（～27日）
- ２３日（水）教区宣教大会〔高松司教座聖堂〕勤労感謝の日
- ２７日（日）待降節第１主日（B年）
- ３０日（水）聖アンデレ使徒　祝

１２月
- ３日（土）聖フランシスコ・ザビエル 溝部脩司教霊名の祝日
- ４日（日）待降節第２主日（宣教地司祭育成）
- ７日（水）司祭評議会 12:00
- ８日（木）無原罪の聖母マリア
- １１日（日）待降節第２主日
- １８日（日）待降節第３主日
- ２３日（金）天皇誕生日　青少年委クリスマス会
- ２４日（土）クリスマスイブ
- ２５日（日）主の降誕
- ２７日（火）使徒ヨハネ 諏訪榮治郎司教霊名の祝日
- ３０日（金）聖家族

大阪教会管区東北支援のための募金口座

【銀行口座】
三井住友銀行玉造支店　（タマツクリ支店）
普通預金 ６５８７８３０
カトリック大阪大司教区
大阪教会管区プロジェクト
代表役員　池長 潤（イケナガ ジュン）

【郵便振込口座】
口座番号　００９５０－５－２０９３５１
加入者名　カトリック大阪大司教区
通信欄に
「大阪教会管区大船渡プロジェクト」
と記入

できる支援探そう

東北被災地を訪れて思う

『ここにきて下さるだけでうれしいです』

昨年春、友人たちの招きによって訪れた東北の地、三月十一日のあの大震災の報道に接し「行きたい、行かなければ」と思いつつ、家庭の事情で八月までは身動きが取れませんでしたが、このたびよい機会にも恵まれ、九月八日から十八日の十日間、被災地訪問の旅に車で出かけました。

最初に訪れたのは岩手県陸前高田市です。峠を越えた途端、眼下に広がる陸前高田の町は、何も無くなっていました。この一言につきます。昨年散歩したあの松林、美味しいお蕎麦を食べさせていただいた、駅前のお蕎麦屋さん、買い物をしたショッピング街はみんなどこに行ってしまったのか。がれきが片付けられ、草が生えだした広い平地の向こうに見える、健気にも残った一本の松には涙がこぼれました。

今回訪れたのは、陸前高田、釜石、大船渡、仙台、いわき市などでしたが、どの場所も内陸部と海岸部の景色の違いに唖然としました。そんな中で、ご自分たちも被害を受けながら地域住民のために働いている「カリタスジャパン・ボランティアベース」の運営を支えている教会の皆様のお働きは、福音宣教のお手本だと思いました。

例えば刻々変わるニーズに応えて全国から集まるボランティアの人々がスムーズに働けるように、市の福祉協議会などと毎日連絡を取りながら、働く場を決めていくこと、一日の終わりにはみんなで集まって祈り、振り返りを行うことをくり返していただいたことは私にとって大きなものでした。震災直後水が無いので、山の湧き水を汲みに行き、トラックで運び皆さんに分けたこと、何日もお風呂に入れない人々のために、バスを出し温泉ツアーをしたこと等を訥々とお話しくださるそのなかに、身の回りに起きる一つ一つを真剣に考え、知恵を出し合っていく力がカトリック教会の中にあることを見せていただき、カトリック信者として嬉しく誇りに思えました。それだけに、被災地から遠い四国にあって、私たちにできることを探さなければと真剣に考えています。

釜石ベース喫茶コーナーで
スタッフの方から説明を受ける

釜石ベース外観

支援は自分の気持ちだけを前に出すのではなく、支援することにもルールがあるということを良く考えて、一歩前進したいと思っています。

郡中教会　今泉洋子

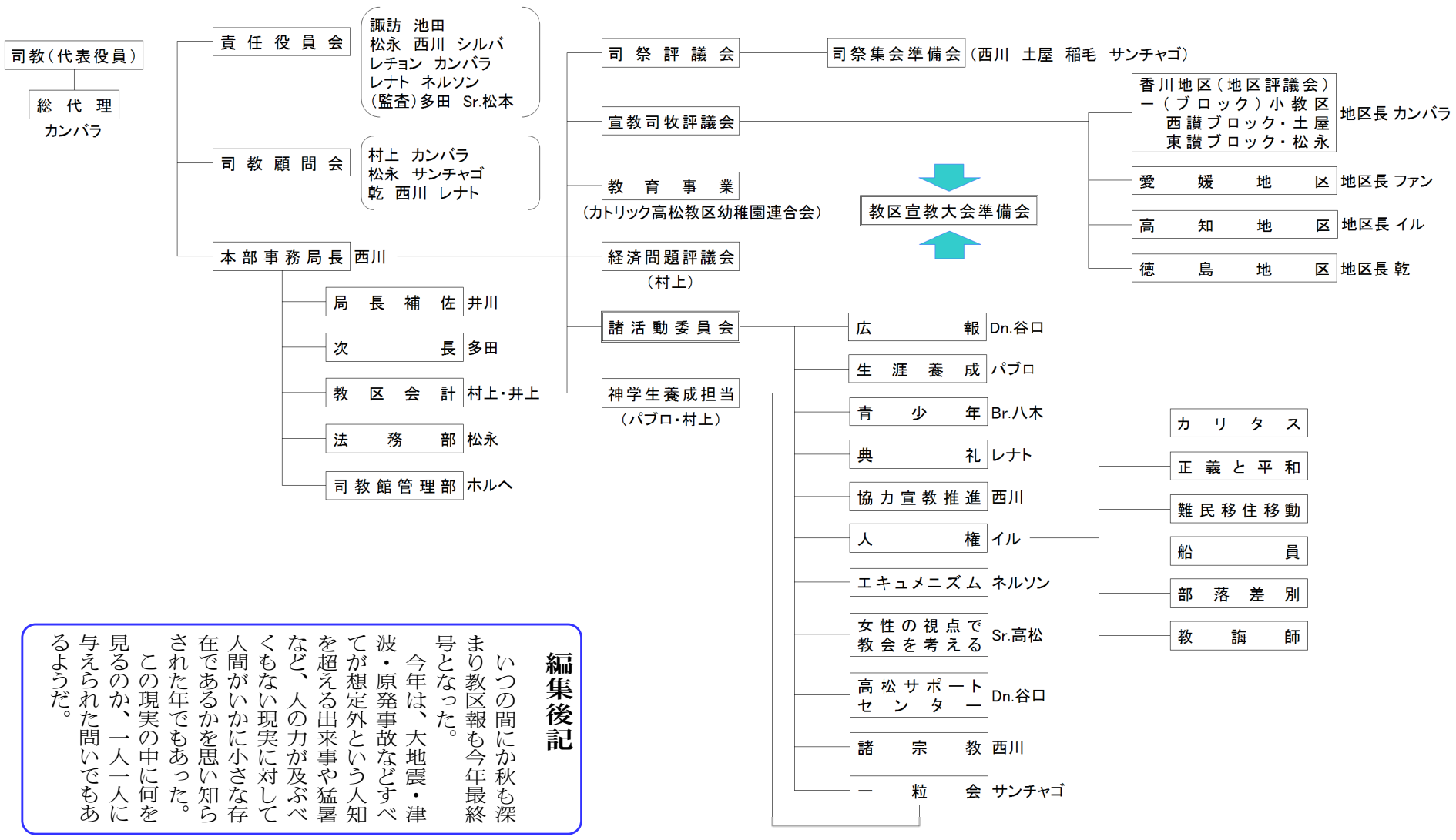
編集後記

いつの間にか秋も深まり教区報も今年最終号となった。

今年は、大地震・津波・原発事故などすべてが想定外という人知を超える出来事や猛暑など、人の力が及ぶべくもない現実に対して人間がいかに小さな存在であるかを思い知らされた年でもあった。

この現実の中に何を見るのか、一人一人に与えられた問いでもあるようだ。

高松教区組織図



私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

医療法人社団聖心会 阪本病院
看護師・准看護師
随時募集中です！
院内保育園開設
ご連絡を
お待ちしています。
連絡先（事務局）
0120-770-315

住環境福祉コーディネーターが家造り
福祉住環境リフォーム
高齢者・障害者に配慮したバリアフリーの住宅
福祉住環境リフォーム・新築・増改築工事・設計施工
有限会社リフォームオオタ
代表取締役　太田　修
〒763-0092　丸亀市川西町南449番地3　TEL (0877) 28-0881・FAX (0877) 28-0190
E-mail o-chandazo@theia.ocn.ne.jp　URL http://www.reform-oota.co.jp